

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて

### 「今」の時代の武道授業を追い求めて (空手道授業のさらなる充実に向けて)

高知市立潮江中学校 主幹教諭 野中史子

平成24年度から必修となった中学校保健体育科における武道授業が始まってから10年以上が経過した。その間に、学習指導要領の改訂があり、指導の内容をさらに充実させるための協議をこれまで日本武道館と全日本空手道連盟のもとで行ってきた。当時を振り返りながら、今後の武道授業のさらなる充実に向けて考えていきたい。

#### 1 学校教育における学校武道の空手道授業について

(1) 武道必修化を受けて  
平成24年度以降、学習指導要領「保健体育」では、「武道の領域は、第1学年及び第2学年においてすべての生徒に履修させること」と示され、事実上の必修となった。ただし、当時の学習指導要領解説では「柔道、剣道又は相撲のうちから1種目を選択して履修できるようにすること」を原則として、

「地域や学校の実態に応じて履修させることができる、なぎなたなどのその他の武道」と示されていたため、空手道を授業種目に採用することは現場にとってかなりの難しさを感じた。しかし、「安全面」や「施設面」「家庭の経済的負担」などを考えると、空手道授業は優れていると確信し、普及活動を続けてきた。

その結果、124校から始まった空手道授業実施校は、次期学習指導要領改訂の29年度までに250校を超えることとなった。この頃の空手道授業の内容は、学習指導要領に

沿って、「基本動作や基本となる技を身に付けさせるとともに、形を取り入れるなどの工夫をし、効果的、継続的な学習ができるようにする」という観点で、基本動作を取り入れた「基本形」の習得ができるような授業計画を柱としていた(資料1)。

#### (2) 新学習指導要領の改訂による学校武道の充実

令和3年度から全面实施となった現行の学習指導要領解説においては、「武道については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること」と示され、柔道、剣道、相撲に加えて履修させたり、替えて履修させる場合の具体的な要件も示され、空手道授業を採用しやすくなった。空手道授業のさらなる充実のために、それまで進めてきた個人・団体形と簡易な約束組手の授業に加え、創作組手など新たな教材開発に取り組んでいる。

資料1 指導と評価の計画 領域:「武道」 単元:「空手道」(1学年)【12時間】

時数	学習のねらいおよび学習活動	学習における具体的評価規準・評価方法			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1	<b>学習1</b> オリエンテーション ・空手道の学習の仕方や練習方法を学ぶ。 ・空手道に対する興味・関心を高める。学習活動 ・学習ノート、授業の流れ、約束事項の説明 ・空手道の歴史や特性の学習 【技能の内容】 礼法、立ち方、進退動作、体ほぐしの運動	① 礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、空手道を学ぼうとする。 (観察)			① 空手道の歴史や特性、礼法の重要性について書き出している。 (学習ノート)
2 3 4 5 6	<b>学習2</b> 空手道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ ・空手道に必要な基本動作を身に付ける。 ・繰り返し回数が多くなるようにし、2人組で動きに変化をつける。 ・段階を追って技能を高める。 ・受け技・攻撃技と基本動作を関連付けて身に付ける。 学習活動 ・個人技能を高める練習、相対での練習 【技能の内容】 単独→相対での受け技と基本動作、攻撃技と基本動作、体ほぐしの運動	② 新しい技を習得する喜びを味わい、空手道を楽しもうとする。 (観察、学習ノート)	① 技を習得するための課題を見付け、練習や試合の仕方を選択している。 (観察、学習ノート)	① 受け技と関連する基本動作ができる。 (観察) ② 攻撃技と関連する基本動作ができる。 (観察) ③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	② 基本動作の重要性と方法について言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノート) ③ 基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノート)
7 8 9 10 11	<b>学習3</b> 身に付けた技能を用いて、個人形を工夫して楽しむ ・段階を追って技能を高める。 ・3人～5人組による練習、見取り稽古により課題を確認し、練習方法を工夫する。 ・空手道の実際の動きに必要な新しい技能を身に付ける。 学習活動 ・個人技能を高める練習、3人～5人組での練習 【技能の内容】 自由練習・簡易の試合、体ほぐしの運動	② 新しい技を習得する喜びを味わい、空手道を楽しもうとする。 (観察、学習ノート) ③ 練習や簡易な試合において、ルールや禁止事項を守り、自他の安全に留意して行動しようとする。 (観察、学習ノート)	② 仲間と協力し、考え、教えあいながら、課題の解決に向けた方法を見付けている。 (観察、学習ノート) ③ 形の演武を通して自分の課題を発見している。 (観察、学習ノート)	③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	③ 基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノート) ④ 簡易な試合での試合方法やルールについて言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノート)
12	<b>まとめ</b> 学習のまとめ ・個人形の発表会を通して技のポイントと自分の課題を整理し、技術的な理解を深める。 ・個人ノートの記録をもとに、学習を振り返り、まとめをする。	① 礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、空手道を学ぼうとする。 (観察、学習ノート)		③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	① 空手道の歴史や特性、礼法の重要性について書き出している。 (学習ノート)

## 2 高知県の取組

### (1) 武道必修化に向けた授業の取組と指導者の養成

平成24年度の必修化を控え、高知県ではその2年前の22年4月に高知市内の公立中学校で初めての空手道授業を行った。

筆者自身も空手道場での指導や部活動指導の経験はあったが、授業で空手道を教えるという未知のことに保健体育科教員と丁寧



写真1 空手道未経験の教員が対象の空手道実技講習会



写真2 体育祭での集団形演武



写真3 実際の空手道

画を練った。当時は、全日本空手道連盟の中学校武道手引き作成委員会で作成した『指導と評価の計画』を参考に授業づくりをした。

生徒も空手道という武道に初めて触れる中で、授業前の「こわい」「痛そう」というイメージが、「かっこいい」「次の授業が楽しみ」などとプラスのイメージに変化した。また、授業後には生徒が自ら挨拶ができるようになり、言葉遣いや礼儀もよくなったと他の教員から声が寄せられた。同年8月には「高知市教育研究会保健体育部会」で空手道経験のない中学校保

健体育教員を対象に「空手道実技講習会」(写真1)を行った。参加した教員の中には、「空手道の授業の可能性」について、強い関心を示してくれた方々が大勢いた

ことを覚えている。当時の課題として「専門性が必要なため、初心者でも指導ができる計画や視聴覚教材があればよい」という意見があったが、現在は、指導と評価規準を示した単元計画や効果的な視聴覚教材が充実してきている。この時以降、毎年夏に行われる「全国空手道指導者研修会」(日本武道館、全日本空手道連盟の共

催)への参加希望の問い合わせが増えた。

### (2) 現在の空手道授業の実践例

高知市西部にある県立高知国際中学校では、空手道授業に加え、体育祭で集団形演武に取り組んでいる(写真2)。

同校が空手道を導入したきっかけは、管理職の理解のもと令和元年に県教育委員会から「武道指導推進事業」を受け、授業協力者とともに、空手道の授業を行ったことである。指導にあたる保健体育教員が、空手道の経験者でもあり、スムーズに空手道授業を導入することができた。授業アンケートでは、武道を楽しく学習できた割合が事前と事後で58%から64%に上昇した。

同校では、「単元計画」(資料2)と「技能評価のルーブリック」(評価基準を、観点と尺度からなる表として示したもの)(資料3)を工夫し、指導と評価の一体化を図っている。また、武道とダンス領域を融合させ、「MYP単元プランナー」(資料4・5)の作成をし、

親しみやすい授業を展開している(写真3)。

空手道授業を導入してよかった点は、礼儀や思いやりが身につくことと、「空手道指導の手引き」(日本武道館・全日本空手道連盟発行)の評価基準が分かりやすいこと、形の動きが簡単で取り組みやすいことが挙げられた。体育祭は、隔年での開催のため、今年度の授業は冬季に行う予定である。

## 3 これからの武道授業の充実に向けて

中学校体育に武道授業が採用されて以降、全日本空手道連盟の武道推進委員として、空手道の授業づくりに参加させていただく中で、空手道の教育的価値や今後の可能性を感じることが大変多い。東京オリンピックの採用や部活動地域移行によって、現在は身近に空手道に親しむことができる環境が整っている。身近だからこそ学校で武道を何のために学ぶのか、そして学ぶことで何ができるよう

## 資料2 武道 空手道単元計画

### 評価基準

MYP 評価 C: 応用と実践 (パフォーマンス)

- i 幅広いスキルや技術を思い出し、応用すること
- ii 幅広い戦略や動きの概念を思い出し、応用すること
- iii 効果的なパフォーマンスに必要な情報を思い出し、応用すること

### 技能

空手道の歴史や特性、体育で空手道を学習する意義を理解し、これからの学習につなげる。仲間と協力し、考え、教えあいながら、課題の解決に向けた方法を見つけている【知識、思考・判断】  
礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、空手道を学ぼうとする【態度】  
基本型1の移動の仕方を理解し、受け技・順突きを移動しながら行うことができる【技能】

時数	指導のねらい 学習内容・学習活動	授業者	態	技	知	評価方法
1	武道の伝統的な考え方を理解する ・オリエンテーション ・学習の進め方 ・安全に対する留意点 ・空手の礼儀作法、帯の結び方	武中			○	観察
2	基本動作を身に付ける ・空手道のDVDを見せる	川田 (授業協力者)	○			観察
3	立ち方(結び立ち、閉足立ち、平行立ち、八字立ち、前屈立ち) ・足さばき前屈立ちでの移動	川田 (授業協力者)			○	観察
4	中段突き、上段上げ受け、下段受け ・前屈立ちで移動しながらの受け、順突き	川田 (授業協力者)		○		観察
5	基本型1の挙動を理解する	武中			○	観察
6	基本型1の足運びを理解する ・受け、突きを取り入れ実際に基本型1を行う ・団体での演武についての説明 ・団体での基本型1の練習 ・美しくダイナミックな演武となるよう各グループで形の表現方法を考える	武中		○		観察
7	団体での演武練習 ・各グループで基本型1の全挙動を正確にできるようにする	武中			○	観察
8	各グループ発表会 ・発表するときの姿勢 ・グループごとの発表を見ての振り返り	武中	○	○		観察

資料4 MYP 単元プランナー

担当教師	大崎光峻・上村陽子・寺尾拓・武中将輝	教科と学問領域	保健体育 (Physical Health and Education)		
単元名	武道 (空手)・ダンス	MYP 学年	1	授業時数 (時間)	16

探究：単元の目的を確立する

Key concept (重要概念)	Related concept(s) (関連概念)	Global context (グローバルな文脈)
美しさ	バランス・エネルギー	個人的表現と文化的表現
Conceptual understanding (概念理念)	Statement of inquiry (探究テーマ)	
力の加減 (エネルギーのバランス) を思い通りに行うことで、動きに美しさを生む。	エネルギーのバランスは美しさを創造する	
Inquiry Questions (探究の問い)		
<b>Factual</b> (事実的) — 武道における型や礼儀作法はどのようなものがあるか ダンスにはどのようなジャンルがあるか/ダンスの評価に影響するものはなにか		
<b>Conceptual</b> (概念的) — 私たちはどのように美しい動きを表現できるか		
<b>Debatable</b> (議論的) — 空手における型の美しさを決定づけるものは何/美しさを決めるものは何か		

資料5 MYP 単元プランナー

Objectives (目標)	Summative assessment (総括的評価)	
各教科の規準項目 規準 A：知識と理解 i 「保健体育」に関する、事実的、手続き的、概念的知識を簡単に述べること iii 理解を伝えるために、「保健体育」の専門用語を使用すること 規準 C：応用と実践 (パフォーマンス) i 幅広いスキルと技法を効果的に思い出し、応用する ii 幅広い方策と運動の概念を思い出し、応用する iii 効果的にパフォーマンスを行うための情報を思い出し、応用する 規準 D：実践 (パフォーマンス) の振り返りと改善 i 対人スキルを強化するための戦略特定し、示す ii 計画の有効性を、その成果に基づき詳しく述べること iii パフォーマンスについて詳しく述べ、要約すること	<b>Outline of summative assessment task(s) including assessment criteria:</b> 評価規準を含む総括的評価課題の概要 課題の具体的な内容と規準カテゴリー 課題 1：ダンスと空手のパフォーマンスについての振り返り (規準 A,D) 評価物：ブックレット ダンスと空手それぞれについて「美しい」とするパフォーマンスに必要な規準や条件を設定し、それらを実践したパフォーマンスについての振り返りをブックレットに記録する。 課題 2：空手の演武とダンスのパフォーマンス (規準 C) 評価物：動画 (教員による撮影) 空手：指定した規準に沿って美しさを表現する。 ダンス：「美しさ」を表現するための規準に合わせて「動作」「動きのパターン」「モーティブ」を項目から選択し、グループごとに作成した規準に沿って実演する。	<b>Relationship between summative assessment task(s) and statement of inquiry:</b> 総括的評価課題と探究テーマとの関係 課題とテーマの関係 (理由・根拠) 探究テーマ「エネルギーのバランスは美しさを創造する」「美しさ」は、美や審美眼の特性、創造、意味、感じ方を扱います。「美しさ」の学習により、芸術、文化、自然に対する批判的な鑑賞や分析の技能を発達させます。 空手やダンスには、観ているのが美しいと感じる表現が存在する。空手における美しさとは、演武によって表現でき、ダンスにおける美しさは、音楽や隊形の変化等の相乗効果によっても表現される。いずれにおいても、美しさは身体の使い方や力の加減に依存している。 本単元では、空手の型と、ダンスで自身の身体によって美しさをどのように表現できるのかを探究することを通して、「美しさ」について理解を深める。 バランスとは、対照的、対立的、または相互作用の要因が均衡を保っている状態を指す。たとえば、動きのルティーンにおいて要素が美しくかつ心地よく統合している状態や、競技者に均等に役割を割り当てることによってチームが安定している状態、ライフスタイルに関する選択の決定手段、健康の各側面に同等の重要性を付与することなど、さまざまな形でも実現される。 エネルギーとは、システムの内部で変化を生み出す上で、構成部分の間を移動する根本的な存在。物事を実行する能力であり、個人が必要とするエネルギーの量や形式は、実行する課題によって変わる。個人のエネルギーレベルの回復は、休息、栄養補給、時間などさまざまな要因により決定される。エネルギーレベルは、思考能力



写真4 ドイツの日本人学校で小学生に指導を行う



写真5 独日協会の新年会での演武

になるのかを明確にし、指導していくことが重要であると考える。そのため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、より効果的、継続的な学習を生徒が工夫してできる授業づくりの研究を続けていきたい。また、私は平成28年度より3年間、ドイツの在外教育施設に勤務し、小学生に空手道の指導を行っていた(写真4)。空手道を披露する機会があり(写真5)、日本の空手道を通じて現地の方々との

交流が深まった。武道の必修が小学校でも実現すると、子どもたちにとってわが国固有の文化である武道に対する理解がより深まり、国際社会で生きていく上で大変有意義なものとなるのではないかと考えられる。

【参考資料】  
・『中学校学習指導要領解説』(保健体育編) (文部科学省)  
・『空手道指導の手引き』(日本武道館/全日本空手道連盟)

資料3 体育 空手の評価基準

評価基準 C：応用と実践

- i 幅広いスキルや技術を示し、応用すること
- ii 幅広い戦略や動きの概念を示し、応用すること
- iii 効果的なパフォーマンスに必要な情報を簡単に述べ、応用すること

到達度	レベルの説明
0	生徒は、以下に記入されたいずれの基準にも達していない。
1～2	i 中段突き、上段あげ受け、中段蹴りの基本ができている。 ii 基本形二の足さばきができている。 iii 入退場までの礼儀作法が統一されている。
3～4	i 突き、受け、蹴りの基本ができおり、真身、半身ができている。 ii 基本形二の足さばき、気合がしっかりと出ている。 iii 入退場までの礼儀作法、動きが統一されている。
5～6	i 突き、受け、蹴りにメリハリがあり、真身、半身ができている。 ii 基本形二の足さばき、上体の動き、気合が一致している。 iii 入退場までの礼儀作法、動きが統され、隊形ができている。
7～8	i 突き、受け、蹴りにメリハリがあり、腰の捻転、真身、半身ができている。 ii 基本形二の足さばき、上体の動き、気合が一致し尚且つ次の動きを見据えている。 iii 入退場までの礼儀作法、動きが統一され、隊形にも工夫がみられる。

試験を行うこととする。  
試験当日欠席した生徒に対しては後日、再試験を行う。  
グループではできないので iii の評価は礼儀作法で評価を行う。

演武中に見る態度も審査の対象とする。( iii の評価に入れる)